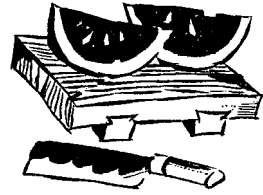


# 農業



平成23年8月号  
会誌 No. 1549

## 目次

### 巻頭言

地域の中から輝きを……………五月女昌巳 3

### 論壇

チームプレイ……………生源寺真一 4

### 農業懇話会

平成22年度食料・農業・農村白書について……………阿部 勲 6

特集「東日本大震災」の発生

トピックス 環境問題と食料・農業・農村

第1章 食料の安定供給の確保に向けて

第2章 農業の持続的発展に向けて

第3章 農村の活性化に向けて

### 寄稿

食品の放射能汚染と人体への影響……………林 徹 33

放射線と放射能と放射性物質

外部被曝と内部被曝

放射線の人体への影響

飲食物の規制値

内部被曝のリスクの評価

放射能汚染した大地からの外部被曝

食品の放射能汚染除去

寄稿

薬用作物の生産拡大に向けての課題……………高橋貴與嗣 40

需要の動向

国内生産の現状

栽培に関する新たな動き

これからの産地のために

農業・農村の現場から

「米・麦・大豆」の有機農産物の生産加工販売と輸出への取組…井村辰二郎 50

世界の農業は今

イランの果樹栽培……………梶浦 一郎 57

—ナツメ樹林を訪ねて—

統計情報

産地直売所調査結果の概要…………… 62

産地直売所調査結果の概要

—農産物産地消費等実態調査（平成21年度結果）—

農政情報

…………… 63

大日本農会だより…………… 64

表紙写真説明

じゅんさい採り（福島県裏磐梯北塩原村）

福島県<sup>やまぐん</sup>耶麻郡北塩原村は、裏磐梯に位置し、<sup>ひばらこ</sup>檜原湖、<sup>ごしきぬま</sup>五色沼などの磐梯山の噴火により形成された湖沼群が多くあり、美しい観光地である。その中の<sup>そほらこ</sup>曾原湖、その周辺の湖沼には<sup>じゅんさい</sup>蓴菜が自生していた。じゅんさいは、スイレン科の多年生水草で若芽・若葉は食用として珍重される。この地域では休耕田を利用してのじゅんさい栽培も広く行われ、地域の特産品となっている。じゅんさい採りは、写真にあるように沼にロープを張り、箱舟に乗って若芽・若葉をひとつひとつ採る大変な作業である。

北塩原村のじゅんさいは「ヌラ」とよばれるゼラチン質の量が多く、国内産では、最も高品質と言われている。しかし、じゅんさいを採る「とりこ」は、高齢化で、だんだんと減少し、後継者も不足し、放置されるじゅんさい沼も多くみられるようになった。一方、温暖化の影響か、採取期間が2/3に縮小し、絶滅が危惧されている。すでに絶滅した地域もあり、多くの自治体でレッドデータブックに掲載されはじめています。地域としては、じゅんさいを保全し、地域の特産品をなくさないように協議を重ねている。

（写真提供：（社）地域環境資源センター：旧農村環境整備センター）